

サポート

No. 26

2022年5月発行

地域をつなぐ、安心を届ける情報誌

災害対策の

精度を高める



特集

武蔵野市災害時物資供給マニュアル検討会議



特集

武蔵野市

災害時物資供給

マニュアル検討会議

当センターは地域の災害対策を更に充実させるため、自治体、または複数の自治体・団体からなる連合会が設置している協議会など(以下、協議会)に参画しています。これらの組織には、その会の目的に応じて、有識者をはじめ、物資供給、配送、生活・交通インフラ、避難施設の管理・運営などを担う様々な事業者・団体が所属しています。

当センターが参画している組織も、そのほとんどが物資供給に関する仕組みの構築や改善が目的です。

協議会では自治体の掲げる目標に対しての課題や問題点を、各事業者の視点で捉え、改善策を提案します。また、事業者側もこれまでの経験から同様に課題を挙げ、自治体の要望に対して何が出来て何が出来ないかを明示し、全体で共有しています。当センターも、要請時に問題となりやすい点や、相互に協力していくべき点等を提示しています。

さらにほとんどの組織は、会議だけでなく図上訓練や実動訓練も行います。発災から要請・搬入出などの一通りの流れと、実際に走る道路や物資集積場・避難所の使用感を時間をかけて確認し、検証を重ねています。

これらを繰り返し行い、改善された手順をマニュアル等に組み込みます。このように全体の災害対応の精度を高め、加えて災害時の相互の活動を明らかにすることが、円滑な連携につながっているのです。

災害対策の
精度を高める



NPO法人
KOMERI コメリ災害対策センター

サポート No. 26

地域をつなぐ、安心を届ける情報誌

Index

特集

武蔵野市災害時物資供給 マニュアル検討会議 …… 2

小特集

協力体制の確立と、 確実な物資供給のために …… 8

活動報告 …… 11

協定・インフォメーション …… 13

物資情報 …… 14

表①

業務分類	担当班	業務内容	担当課	
物資管理 統括	物資管理班 (統括チーム)	物資管理班の管理・統制 関係各所との調整、(物資チームの支援) 物資管理班への人的支援に関する窓口・ 調整に関する業務	産業振興課	
物資	需要 把握	物資管理班 (需要把握チーム)	避難所のニーズ情報の集約 避難所へ物資の供給見通しの伝達	多文化共生・交流課
	物資 調整	物資管理班 (物資調整チーム)	需要と調達の調整、調達計画・配分計画 の策定 物資管理班(拠点チーム)へ拠点確保の 指示、物資搬送班へ輸送確保に関する 指示	多文化共生・交流課
	調達	物資管理班 (調達チーム)	国・企業等より支援物資の調達	多文化共生・交流課
物流	拠点	物資管理班 (拠点チーム)	拠点の確保、入出荷指示、在庫管理	監査委員事務局 管財課
	輸送	物資搬送班	輸送計画の策定、輸送手段の確保、 交通情報整理	ごみ総合対策課
		管財施設班	公用車の管理	管財課
	緊急物資 拠点内 業務	緊急物資拠点 チーム	荷受け・仕分け、管理、 配送等業務のマネジメント	総合体育館及び 物資管理班(拠点チーム) から派遣された職員
避難所管理	災対子ども家庭部 避難所班	避難所運営 各避難所のニーズ把握	子ども育成課 子ども政策課 子ども家庭支援センター 児童青少年課	
	災対教育部庶務班		教育企画課	
	災対教育部避難所班		指導課、教育支援課、 図書館	

武蔵野市災害時物資供給マニュアル(中間案)より引用して一部改変

輸送を担う事業者については一事業者のみであり、体制の強化については検討会議の中で課題となっていました。この件については、検討会議設置後に物資輸送を担う事業者と新たに協定を締結することができ、緊急物資輸送拠点の運営、物資の搬送、災害対策本部の物資供給に関するマネジメン

トを含む内容で協力いただけることとなっております。すでに緊急物資輸送拠点の視察もいただいております。マニュアルを策定した後も事業者の協力内容を含みアップデートしていく必要があると思っております。また、専門的知見をお持ちの学識のある方や、広域行政を担う東京都職員

の方にもご協力いただき、こちらも大変ありがたいことでした。マニュアル策定の流れや、検討会議設置からの活動内容について具体的に教えてください。検討会議全体の進め方は、①第1回

この検討会議設置まで武蔵野市では災害時の物資供給について定めているマニュアルはなく、地域防災計画の一部に物資供給や物資管理についての記載があるのみでした。発災時は市民部が災対市民部として物資管理を担当して

2017年から2019年の間は職

策定するマニュアルは、武蔵野市が

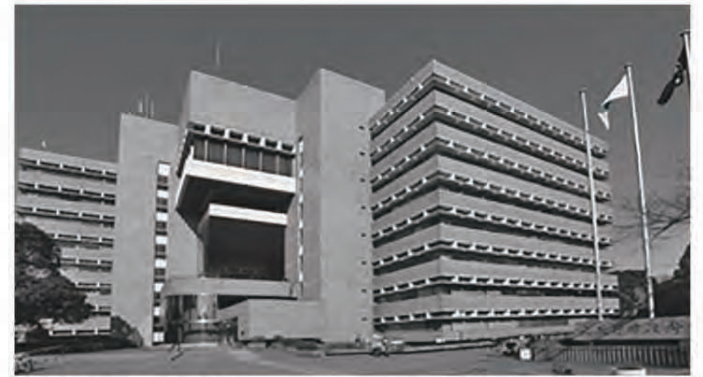
始めに、「武蔵野市災害時物資供給マニュアル検討会議」の設置の目的とその背景、活動の主旨についてお聞かせ

2016年に発生した熊本地震で緊急物資輸送拠点から先

員のみで対策案の検討を行いました

東京都武蔵野市様は、2008年に当センターと「災害時等における物資供給に関する協定」を締結されています。2020年、災害時の物資供給を円滑にし、市民生活の早期復旧に資するために必要な事項について協議・検討を行うため、「武蔵野市災害時物資供給マニュアル検討会議」を設置されました。当センターはこの検討会議に委員として参画しております。今回、特に物資供給に絞って取り組まれている武蔵野市様の検討会議についてご紹介いたします。

お 話 / 武蔵野市役所 防災課 松丘様
多文化共生・交流課 永嶋様
聞き手 / NPO法人コメリア災害対策センター 古澤



武蔵野市役所庁舎 (提供: 武蔵野市)

被災した際に必要となる物資のうち、備蓄物資や支援物資、調達物資を被災者への支援として迅速かつ安定的に避難所等へ供給するためのものです。受入れや供給に係る体制と関係機関との役割分担を整理し、物資供給についての具体的な手順を示すことを目的に作成しています。

検討会議の関係部署や委員に参画している事業者・団体はどのような内訳になっていきますか。組織の体制についてお聞かせください。

このマニュアルで定める物資に関する体制は、市役所内の3課と、緊急物資輸送拠点となる総合体育館を平常時に運営する公益財団法人(以下「事業団」として編成された物資管理班を中心に構成されています。表①参照。物資管理班の他には、物資輸送の運用を担当する物資搬送班を市の1課が担っています。また、物資輸送の際には公用車を使用することもありますが、別に班を設け担当課を付けています。ですので、物資供給という枠組みとしては、市役所の5課と事業団1団体によって編成されています。一方の事業者は、協定締結事業者の中でも物資や輸送に関わりのある物流事業者から選定しました。しかし、物資



緊急物資輸送拠点に設定されている総合体育館のメインアリーナ。災害時にはここに大量の物資が納入される予定となっています。

の検討会議で骨子をお示しし意見をいただき、②第2回でいただいた意見を基に中間案として体裁を整える、③第3回で全体を通して検討された内容を反映しマニュアルとして策定する、という段階を踏むこととなりました。実際に現時点(取材時2022年2月)で委員の方々には中間案をお示ししており、それに対していただいた意見を反映しているところです。

検討会議以外では、市役所内でも会議で話し合われた内容については改めて協議を行っています。緊急物資輸送

しました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。



緊急物資輸送拠点に設定されている総合体育館の屋外スペース。大型車両による物資の積み卸しや別の車両への積み出しのために一部を利用することになっています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

また、今回の訓練では、市役所内において、物資管理班所属課など、関係各課から複数の職員に参加してもらいま

ました。
本来であればマニュアルに沿った流れを実動訓練で行うはずでしたが、コロナ禍により情報伝達訓練で行うこととなりました。しかし情報伝達訓練のみでも見えてきた課題はいくつかあります。ご指摘いただいた内容は通信方法や様式の使用感などもあり、実務的な修正も多くでき、事務の流れを精査することが出来たと考えています。

表②

	発災直後	24時間まで	72時間まで	7日まで	7日以降
フェーズ1 体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 市災害対策本部、各班の立ち上げ 物資管理に関する人員、備蓄拠点、物資集積場所、輸送道路等の被災状況の把握 通信手段、人員、配送手段、物資集積場所の確保 				
フェーズ2 備蓄物資の活用	<ul style="list-style-type: none"> 市備蓄物資の供給 都備蓄物資の提供依頼 備蓄物資の避難所等への配送 備蓄物資の被災者への配付 備蓄物資不足時の調達 				
フェーズ3 避難所等へのプッシュ型支援	<ul style="list-style-type: none"> 避難者数に見合った物資量の想定 物資集積場所における国、都、協定締結団体からのプッシュ型物資の受入れ及び管理 必要な品目・数量について協定締結団体等へ要請 物資の避難所等の配送(必要に応じて配送手段の拡大) 				
フェーズ4 避難所等へのプル型支援	<ul style="list-style-type: none"> 避難者の詳細なニーズの把握と必要な品目・数量の把握 必要な品目・数量について協定締結団体等へ要請 物資の避難所等への定期的、安定的な配送 				

武蔵野市災害時物資管理マニュアル(中間案)より引用して一部改変

拠点から避難所までの物資供給の具体的な手順を記載するものですから、供給や受け入れ態勢はどうするのか、協力いただく関係機関の役割分担は適切かなど、都度経過を確認し無理のない運用になるよう調整しています。

検討会議設置前には定められていなかった物資管理に関する体制は非常に重要な部分であり、体制について明確に定めること自体がマニュアル策定の重要事項の一つです。第1回の検討会議の段階では、物資管理班、物資搬送班、管財施設班など班ごとの役割が定められていなかったため、物資管理班の業務が多岐に渡り負担が多く、細部の役割分担を明確にするべきというご指摘をいただきました。検討会議でのご指摘を反映させ、国土交通省のハードブックを参考にしながら班の下にさらにチームを編成し業務を細分化したことで、各々の役割を整えることができました。

もう一点重要なことが、発災後に行う作業を定め、時間の経過ごとに落とし込む事です。恐らく発災時は特にこの項目を見ながらの作業になることが想定されますので、物資管理班の中でも特に検討を重ねた部分であり、上手く整理していく必要があります。マニュアルでは発災から時間の経過

ごとく4段階のフェーズに分けて設定しており、各段階の作業に応じて役割分担を明確にすることで円滑な物資管理、物資供給が可能となると考えています。このフェーズの分け方は、先行してマニュアル策定をされていた別の自治体のものを参考にしています。

検討会議で策定するマニュアルを実用的なものとするためにどのような活動を行いましたか。またそれによりどのような成果が出ていますか。

12月に実施した情報伝達訓練がありました。時間をかけて策定したマニュアルも使用したときに役に立たなければ意味がありません。訓練を通していただいた意見を踏まえた内容に見直すことで最終段階のマニュアルがより実用的、実効的なものになればと考え、マニュアル中間案の段階での訓練実施と

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

マニュアルそのものの課題としては、細かく作りこんだため膨大な情報量となっており、読み込みに時間を要するという点があります。今後はマニュアルを基にした訓練の経験を積んでいくことに加え、より職員が作業を行いやすいよう内容を簡潔にしていく必要があると考えています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

マニュアル内の課題は5点あり、1点目は緊急物資輸送拠点に関するものです。委員の方々を含めた方面から拠点の使い難さに関しての指摘が多く、使えなかった場合の代替案を考えていかなければなりません。事業者の倉庫や市の別施設を新たに借りるので、自転車置き場などの空きスペースを利用する等、様々な可能性を含め検討しています。とはいえ、緊急物資輸送

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

この訓練に参加をしたことで物資管理マニュアルに触れ、身近に感じられたこと自体が意味のあることだったと思っています。職員の中に物資供給についての認識を持たせることが出来たことは訓練の成果だと思っています。

武蔵野市災害時物資供給マニュアルに係る訓練

2021年12月17日、オンライン会議システムを活用した情報伝達訓練が行われました。中間案に基づきフェーズ1の体制の確立と、フェーズ4のプル型支援時の情報伝達をメールや電話を使用して模擬的に実施し、運用に問題がないかの確認を行いました。

最後5点目は物資の管理、供給に必要な資料の整理を行う事です。まず車両が緊急物資輸送拠点に到着するためには、①周辺の道路に関する情報、②施設の外観、③使用車両が搬入口まで入れるか、④発災時の道路状況など、他に

2020年度に引き続き、2021年度も家畜伝染病の発生が相次ぐ年となり、豚熱においては14事例、鳥インフルエンザでは17事例が確認されました。(内、コメリ災害対策センター対応件数 豚熱6事例/鳥インフルエンザ6事例・2022年3月31日現在)

家畜伝染病の対応は一連の作業にスピード感と正確性が求められ、これは物資要請においても同様です。通常の災害は、復旧作業や避難所生活等に一旦の区切りがつくまでの数週間程度物資の要請が続くことが多いですが、家畜伝染病で要請をいただくのは3日間ほどであり、この間に大量の物資が集中して要請されます。

近年の連続した発生を受けて、当センターと(株)コメリ関係各部、ならびにコメリ店舗間での協力体制の確立、情報伝達はより素早く行われるようになりました。コメリグループ一丸となり、要請に対して可能な限り対応ができるよう尽力しております。



2010年に宮崎県で発生した口蹄疫。家畜伝染病ではこれが初めての対応。現地周辺の店舗と連携し、模索しながら物資の引き渡しを行った。

小特集

協力体制の確立と、確実な物資供給のために

また、要請をいただく自治体様においても、これまで当センターとの連携の経験があることから、対応の流れについてご理解をいただいている自治体様が多くなってきました。その一方で、災害や家畜

伝染病の発生経験がまだない自治体様も多くいらっしゃることも事実です。そこで要請から納品に関してよくいただくお問い合わせや、連絡

会議等で確認いただくことが多い事項について、今一度掲載させていただきます。当センターへの要請時のイメージを掴む参考となれば幸いです。



物資が運ばれてくる車両のサイズは様々です。斜面があり敷地に乗り込めない、拠点の出入口が狭く進入できないなどの理由で辿り着けない事も。

も多くの情報が必要です。しかしこれらの情報は全て満たそうとすると膨大な数になります。情報を収集しながら必要なものを取捨選択し、最低限の情報で円滑に運用できるようにマニュアル改定の際に反映させていかなければなりません。

課題としては以上5点が現状であがっており、マニュアルを使用した訓練を通して随時バージョンアップをしながら解決策を加えていきたいと考えています。

検討会議は2021年度で一旦終了になるかと思いますが、マニュアルは作って終わりではありません。今後どのような活動をされていくのかお聞かせください。



検討会の設置に先立って、2020年1月22日に武蔵野市職員の方々を対象とした物資の供給・受け入れに関する研修会を行いました。

作って終わりではないという部分は我々も重く受け止めなければならぬと考えており、マニュアル策定後も5点の課題を含め対応出来ていない部分を補完していくために、内容を更新し続けていきます。具体的には年1回程度の訓練を行い、関係機関からの意見も踏まえメンテナンスを行っていただくと考えています。

NPO法人コメリ災害対策センターは、様々な自治体との訓練経験をお持ちですので効果的な訓練情報の提供や、2020年に行っていたいただいた研修会など職員への啓発活動で今後も協力いただきたいと思います。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

● 白山市訓練

NPO法人コメリ災害対策センターでは、協定を締結している自治体の主催する防災訓練に積極的に参加をしています。参加の内容としては「防災用品の展示」や「物資輸送の模擬訓練」での参加がほとんどですが、地域の目指す形や課題に合わせて、より実効的な訓練をご提案することもあります。過去には自治体と連携し、地域住民参加型の実動訓練を開催いたしました。



2017年9月 石川県白山市出城地区での防災訓練の様子

ラストワンマイルの課題解決の一助として、住民参加型の訓練を企画。大型車両で物資を搬入し住民による荷卸しを行いました。慣れない物資の重さに驚かれる様子や、崩れない物資の積み方について学ぶ場面もあり、地域の防災意識を向上させる有意義な訓練となりました。

ご要請いただく際の留意点

- ①夜間・土日祝のご要請の場合は受付のみ可能です。
商品・車両手配に関しては翌平日からの開始となります。
 - ②流通在庫より供給しているため、在庫は常に変動しております。ご要請の際は、都度在庫の確認が必要です。
 - ③物資により在庫のある拠点異なるため、納品日時に差異が生じることがございます。
 - ④近隣店舗での調達を依頼する場合がございます。
 - ⑤在庫確保よりも車両確保によるタイムロスが多く生じるため、自治体にて車両の手配が可能な場合は依頼する可能性があります。
- ※運送会社等との協定の締結もご検討ください。

コメリ災害対策センターから、指定地へ配送することが多い物資

ゴム手袋 薄手	タオル	養生シート	レジ袋
ゴム手袋 厚手	ポリ袋 45L	ブルーシート	ガソリン携行缶
軍手	ポリ袋 90L	デッキブラシ	乾電池
雨合羽	ペール本体	散水ホース	カラーコーン
長靴	ペール蓋	竹ぼうき	発電機
サンダル	バケツ	ぞうきん	カッター
スリッパ	バケツ蓋	ウエットシート	工具類
靴下	フレコンバッグ	レジャーシート	警告灯
メガネクリーナー	土のう袋	紙コップ	投光器
マスク	台車	使い捨て食器	標識ロープ
セーフティーゴーグル	ロックタイ	割り箸	ビニルテープ
ヘルメット	角スコップ	飲料類	布テープ
ヘッドライト	剣スコップ	ハンドソープ	

店舗でご購入をいただくことが多い物資

合羽	ブルーシート	合板	飲料類
ポリ袋 45L	消石灰	トラックロープ	菓子類
ポリ袋 90L	混合ガソリン	文具類	レジ袋
ペール本体	灯油	はさみ	工具類
ペール蓋	投光器	カッター	カラーコーン
バケツ	延長コード	ビニルテープ	乾電池
バケツ蓋	マーキングスプレー	散水ホース	

※どちらにも記載のある物資は、在庫や納期の状況などにより、対応に変更が生じることが多い物資です。

【コメリ災害対策センターから指定地へ配送することが多い物資】に記載の物資でも、要請数が少数であったり、ご希望の納期での納品が困難な物資は店舗での購入をご提案しています。

【店舗でご購入をいただくことが多い物資】に記載の物資でも、流通センターに在庫があり車両の手配ができれば配送することが可能です。

自然災害、家畜伝染病の両方で
要請の多い物資を対応別に仕分けしました。

24時間以内に納品のタイムスケジュール例

1 流通センターに在庫があり、最短で車両の手配が出来た場合



2 店舗購入をご希望 / 店舗在庫で対応可能な場合



24時間以上での納品のタイムスケジュール例

1 お取引先からの発送となる場合



2 車両の手配に時間を要した場合



上記の流れは一例です。実際の対応は、ご要請内容に応じて臨機応変に決定いたします。ご連絡いただくタイミングによって対応の流れは変動いたします。(週末、夜間、土日、祝日など)

要請からどのような段階を経て納品がされるのか、実際の供給事例を参考に表しました。

「グッドデザイン・ベスト100」と、 特別賞「グッドフォーカス賞」「防災・復興デザイン」を受賞。

【グッドデザイン賞】
1957年に開始。有形無形にかかわらず、人が理想や目的を果たすために築いたものごとをデザインにとらえ、その質を評価・顕彰する事で、そのデザインによって暮らしや社会をより良くしていくための活動です。



2021年度グッドデザイン賞（主催／公益財団法人日本デザイン振興会）は、コロナ禍で新たな未来を切り拓くことを願い望む人々の思いと、その達成に向けて進み動く力の2つを合わせた「希求と交感」をテーマに開催されました。有形無形を問わず全国各地の様々な分野から5,000件を超える応募があり、厳正な審査を経て1,608件の受賞対象が選定されました。そしてこの内、独自性・提案性・審美性・完成度などの面で特に優れ、今後に期待される100点が「グッドデザイン・ベスト100」を受賞することができま。

当センターは、組織としての活動内容とこれまでの実績を評価いただき、また今後の活動の広がりにご期待をいただいた結果、前述の「グッドデザイン・ベスト100」に選出されました。さらに、自然災害への防備または自然災害による被害からの復興

に寄与する優れたデザインとして、ベスト100中の一部に贈られる特別賞「グッドフォーカス賞」「防災・復興デザイン」（日本デザイン振興協会長賞）も同時に受賞いたしました。

審査員からのコメント

コメリが持つ流通網を活用した災害時の物資供給の仕組みのデザイン。全国11カ所の流通センターと46都道府県に店舗を持つコメリだからこそ災害時の物資供給の活動はとも意義深い。日常的に利用しているコメリが、災害時には救急対応のプラットフォームになることで、防災を日常と非日常の隣り合わせのものとして捉えられる仕組みが素晴らしい。この考え方を広げ展開することで、日本全体の防災のデザインがアップデートされること期待される。



この度の結果も、平時より当センターの活動にご理解をいただき、関係して下さっている皆様のおかげです。この結果を受け、さらに地域の災害対策に寄与できるよう、意義ある活動に取り組みでまいります。

HPで新ページを公開

当センターでは、地域の防災事業や一般の方の備えに役立てていただけるよう、過去の物資供給の実績や防災用品の使用方法などの情報をHPで公開しています。

この度「防災・備蓄用品」のページを改修、HP内に点在していた防災用品や備蓄に関する情報を集約し、新たに「災害に備える」のページを公開しました。このページでは、家庭内の危険箇所や避難時の注意点など、災害が発生する前にどのような情報を知っておく



旧ホームページ



新ホームページ



べきかを新たに掲載しています。また自治体・家庭ごとに推奨する備蓄についても、引き続きご紹介しています。

さらに、災害時によく使用される防災用品や作業用品の使い方の方の紹介では、ラインナップの見直しとともに、使用方法を説明した動画も掲載しました。今まで以上に活用いただける内容となりましたので、ぜひご覧ください。

家畜伝染病に備え 備蓄品を追加

（株）コメリの保有する流通センター全11カ所のうち、当センターは10カ所に災害復旧用品を備蓄しています。通常の物資供給は、コメリ店舗への出荷用で納品された一時的な在庫である「流通在庫」を活用しておりますが、流通センターに在庫が不足している物資で、備蓄で賄える場合は備蓄から出荷対応をしています。

2021年度は災害時に稼働することの多い流通センターを中心に、家畜伝染病で要請の多い大型のポリ袋やブルーシートの追加・補充を行いました。

今回の追加では、一部のセンターでは納品した翌月に管轄の自治体で家畜伝染病が発生する事態となりましたが、要請を受けて早速備蓄物資を出荷したことでタイムリーに対応することが出来ました。このことから改めて備蓄の必要性を痛感したとともに、追加のタイミングや数量の見極めの重要性を再認識いたしました。

購入の予算や備蓄スペースには限りがあるものの、皆様からの要請にお

応えできるよう、今後も継続してラインナップ・数量の見直しを行ってまいります。

当センターでは災害時の対応だけでなく、自治体・団体様の備蓄品購入の受付もしております。ご検討されている場合はぜひご連絡ください。



備蓄物資

家畜伝染病で必要となる物資

家畜伝染病で必要となる物資は、使用期限のないものがほとんどです。72時間以内に処理期限が定められている中で、物資調達によるタイムロスは命取りとなります。
必需品や消耗品の必要数の見直し、災害時と併用して備蓄をするなどの対応を推奨いたします。

埋却時			
ブルーシート	角スコップ	剣スコップ	フレコンバッグ
廃棄物処理		消毒	
ポリ袋	土のう袋	消石灰	噴霧器
資機材、家畜の運搬		清掃	燃料
一輪車	台車	竹ぼうき	ガソリン携行缶
作業員装備			
マスク	サンダル	雨合羽	耐油長靴
軍手	ゴム手袋 厚手	ゴム手袋 薄手	セーフティゴーグル

掲載している商品は一例です。実際の供給物資とは異なる場合があります。

2022年3月現在で、 983件の協定締結を行いました。

災害時の円滑な連携を目的に、全国の各自治体・団体と協定を締結しています。



2021.06.17 北海道新ひだか町との調印式 2021.07.21 兵庫県多可町との調印式 2021.08.04 福井県若狭町との調印式



2021.11.17 神奈川県伊勢原市との調印式 2022.3.23 日本道路建設業協会東北支部

新規締結先(2021年4月~2022年3月末)

熊本県	山江村	4月1日	北海道	足寄町	11月12日	東京都	港区	1月26日
佐賀県	玄海町	4月14日	神奈川県	伊勢原市	11月17日	岐阜県	白川町	1月27日
福井県	畜産課	5月26日	大阪府	岸和田市	11月9日	地方独立行政法人	秋田県立病院機構	1月31日
北海道	新ひだか町	6月17日	山梨県	北杜市	12月1日	山梨県	市川三郷町	2月1日
福井県	池田町	7月1日	岐阜県	垂井町	12月10日	北海道	千歳市	2月9日
静岡県	掛川市	7月5日	福岡県	宮若市	12月20日	徳島県	北島町	2月17日
福井県	おおい町	7月13日	徳島県	阿波市	12月24日	山梨県	甲州市	2月21日
兵庫県	多可町	7月21日	長野県	軽井沢町	1月11日	鹿児島県	湧水町	2月22日
福井県	若狭町	8月4日	兵庫県	警察本部	1月17日	埼玉県	横瀬町	3月7日
埼玉県	羽生市	9月1日	長野県	山形村	1月20日	日本道路建設業協会	東北支部	3月23日
三重県	立志摩病院	9月1日	静岡県	磐田市	1月26日			
山形県	警察	10月11日	長野県	山ノ内町	1月26日			

締結先の都道府県別内訳(2022年3月末)

北海道	28	栃木県	24	石川県	15	滋賀県	17	岡山県	23	佐賀県	14
青森県	19	群馬県	18	福井県	17	京都府	17	広島県	14	長崎県	10
岩手県	24	埼玉県	27	山梨県	21	大阪府	11	山口県	16	熊本県	40
宮城県	26	千葉県	31	長野県	42	兵庫県	24	徳島県	15	大分県	11
秋田県	16	東京都	11	岐阜県	32	奈良県	19	香川県	15	宮崎県	22
山形県	28	神奈川県	10	静岡県	19	和歌山県	27	愛媛県	7	鹿児島県	25
福島県	31	新潟県	31	愛知県	14	鳥取県	21	高知県	19	その他団体	9
茨城県	30	富山県	17	三重県	31	島根県	8	福岡県	37		

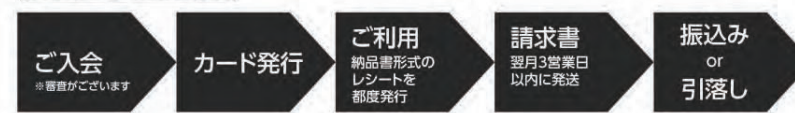


官公庁カード



（株）コメリが発行している官公庁カードは、国や地方公共団体、国立学校、独立行政法人などのお客様を対象とした掛売専用カードです。官公庁カードをご利用いただく、サインのみで商品をお渡しできるのが災害時にもお時間をいたしません。被害状況の確認や復旧作業等で被災地に赴かれ、現地で物資が必要になることも多いかと思われ、そのような場合でも、目的地向かう途中のコメリ店舗でもご利用でき、カード一枚で物資を入手できます。実際にご利用いただいた方からも「便利で助かった」とのお声を頂戴しております。協定を締結いただいている自治体の皆様におかれましては、ぜひ官公庁カードのご入会をご検討いただけますようお願いいたします。

ご入会からご利用の流れ



物資の供給

地震



台風



豪雨



豪雪



火山噴火



家畜伝染病



ご相談ください

Tel. **025-371-4185**

※少量の場合は最寄りの店舗での購入を推奨します。 ※決済には官公庁カードが大変便利です。



NPO法人
コメリ災害対策センター

〒950-1492 新潟市南区清水4501-1

〈TEL〉025-371-4185 (直通) 〈FAX〉025-371-4151

〈E-mail〉npo@komeri.bit.or.jp

〈URL〉<http://www.komeri-npo.org/>



Facebookを始めました

最寄り店舗

